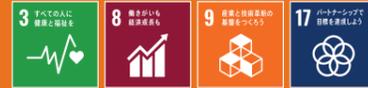


Focal Field 2

リモートによる新しい価値の創造



すべての人々が豊かで安全かつ安心して暮らせる社会を、リモート技術で創る

社会課題に対するKawasakiのソリューション

- 先進国を中心とした労働人口不足、3K職場に代表される労働環境の悪化などに対し、産業用ロボットの豊富な経験・実績を基に、自動化・リモート技術を用いたソリューションを提供し、課題解決に貢献します。
 - 医療分野における患者の負担減ニーズ、医師の不足や負担増問題、地域による医療格差などの課題を解決します。
 - 働き方・暮らし方の多様化が進む社会において、実作業を伴うリモートワーク環境を提供します。子育て世代や高齢者、健康上の理由などにより現場に行くことのできない方々、海外の労働者、スキルドワーカーなど、距離に関係なく社会参加を実現します。
 - 地震や巨大台風、パンデミックの発生など深刻化する災害に対し、高度かつ多様な輸送機器やエネルギー機器により被害の防止・軽減を図り、経済活動の継続と人々の安定した生活の維持に貢献します。
- このうち、ここでは以下の取り組みをご紹介します。

遠隔医療の実現

関連する事業 ● 精密機械・ロボット

手術支援ロボット hinotori™サージカルロボットシステム

川崎重工は、シスメックス株式会社との合併会社として医療用ロボットの開発・製造・販売を行う株式会社メディカロイドを設立しました。株式会社メディカロイドは、当社が50年以上の歴史の中で培った産業用ロボットの技術をベースに、手術支援ロボット[hinotori™サージカルロボットシステム]を開発し、2020年に厚生労働省から製造販売承認取得以降、国内の医療現場で導入が広がっています。同システムは泌尿器科、消化器外科、婦人科に加え2024年6月に胸部外科領域(呼吸器外科)において

保険適用となり、累計5,000例以上の手術で使用されています。発売後も医師のご意見を取り入れ、ユーザビリティを高めた機能を提供しながら国内事業を拡大するとともに、2023年9月にはシンガポールのHealth Sciences Authority(健康科学庁)から販売承認を取得し、グローバル展開も推進しています。

また、社会課題解決に向けた取り組みとして遠隔手術の実現に向けたプロジェクトに参画し、複数の実証実験を行っており、医療の地域格差を解決する技術として期待されています。



手術支援ロボット [hinotori™サージカルロボットシステム](メディカロイド)

位置情報によるDXソリューションサービス

協業による事業開発

ヒト・モノの動きの見える化で働き方改革

2021年にPNT事業を立ち上げ、アジアを中心に展開しているMapxus社へ出資し、国内独占事業として屋内位置情報サービス[mapxus Driven by Kawasaki™]を提供してきました。本サービスは、Wi-Fi電波環境のみで特別なハードウェアを必要としません。さらに、この「屋内」の位置情報とGPSなどで取得する「屋外」の位置情報をシームレスにつなぐこともできます。

既に三井不動産の商業施設、成田国際空港、神戸須磨シーワールド、その他大手メーカーの工場でも本サービスを採用いただいています。また、当社の配送ロボットサービスやヘルスケア事業との連携により、病院・介護施設の業務効率化手段としてトータルソリューションを提案しています。

屋内の人やモノの位置・回遊情報を把握、分析し、業務改善等のDXソリューションとして幅広く提供することを目指していきます。



位置情報によるDXソリューションサービス

ヘルスケア領域の新規開拓

関連する事業 ● 精密機械・ロボット

介護現場への機器やロボット導入を支援する 介護業務支援サービス事業への取り組み

人手不足などの問題を抱える介護施設への適切な介護機器やロボットの導入をサポートする介護業務支援サービス事業に参入します。一般社団法人日本ノーリフト協会と協同し、介護施設や介護機器メーカーにおける現場の課題やニーズを把握し、それらをサポートする介護機器やロボットの推薦を行います。また、新たな機器開発や現場への導入・活用・定着までを支援します。介護スタッフの行動計測には、当社が提供する屋内位置情報サービス[mapxus Driven by Kawasaki™]を活用します。神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクトに参

画し、特別養護老人ホーム「六甲の館」(運営:社会福祉法人弘陵福祉会)および介護付有料老人ホーム「ディアージュ神戸」(運営:JR西日本プロパティーズ株式会社)において、実証試験を実施しています。



介護業務支援サービス

リモート技術で誰でもどこでも働ける社会へ

関連する事業 ● 精密機械・ロボット

すべての人々が参画できる リモート社会を目指して

2021年12月にソニーグループ株式会社と合併で設立したリモートロボティクス株式会社は、「すべての人々が社会参加できるリモート社会の実現を目指し、新しいワークスタイルを提案する」をパーパス(存在意義)に掲げ、新事業の展開に継続して取り組んでいます。

生産年齢人口(15歳~64歳)の減少に伴う人手不足が課題とされる中、働きたくても働きにいけない方がいる状況にあります。リモートロボティクスはRemolinkプラットフォームを通じてこれらの社会課題の解決に貢献していきます。

リモートロボティクスが掲げるパーパスに共感いただき、社会課題への取り組みをとともに進めていこうとする企業との関係構築が進み、これまで10社を超える企業との間でパートナー契約を締結させていただきました。2023年度より提供を開始したリモートシステム開発を可能にする「Remolink Builder」サービス、ロボットを介した新たなリモートワークを実現するクラウドサービス「Remolink」、この2つのサービスを軸に、「リモート」による人とロボットの役割分担という新たな選択肢を提案していきます。